



第 64 回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、黒木久夫さんがスゴイと思うこの方は、「財部でお茶農家を継ぐスゴイ人」とのこと。インタビュアーは江藤裕一でお届けします。

【今回のスゴイ人】

雪舟園

齊藤 理加さん



今回は、財部町出身でご実家の製茶業を継ぐためにお手伝いをされている、齊藤理加さんにお話を伺ってきました。

齊藤さんは3人兄妹の末っ子。高校生の時にはすでに製茶業を継ぐと決心していました。

「小さい頃から父の仕事を見ていて、父の背中がかっこよかったんです。仕事へのこだわりやお茶への想いを間近に見ていて、尊敬と憧れから製茶業を継ぎたいと思いました」

高校卒業後は経営を学ぶために長崎県にある大学の経営学部へ進学。卒業後はすぐに実家に戻ってきましたが、始めたばかりの時は自信がなかったそう。

「製茶は作り手によって変わってくるんです。品種や茶葉の形によつて揉み方が違ってくるのでマニュアルではなく、五感で感覚を掴んでいくことが大変でした」と悩みながらも経験を積んできました。

また齊藤さんは大学在学中に同じ学年のご主人と出逢われました。

す。ご主人は大分県出身で地元にて就職を控えており、齊藤さんは製茶業を継ぐか、結婚かと悩みますが「3年間はそれぞれに頑張ろう！」とご主人は大分県の就職先で、齊藤さんは財部に帰り製茶業の勉強に励むことに。

製茶を学んでいくと、その奥深さに自信を失うこともありましたが、懸命に続けてきた就農5年目。

「初めて父に褒められたんです！お茶を作れるようになってきたことが実感できてすごく嬉しかったです」

その後、遠距離恋愛が結ばれ3年前に結婚しお子さんも生まれた齊藤さん。お父さんがご主人に「お茶はいい仕事だから、やってくれたら嬉しいな」と話され、ご主人も「理加と理加の家族がいる曾於市を拠点にしていきたい」とこの4月から就農し一緒に暮らしていくことに。

齊藤さんの一つのこと真つ直ぐな想いが、素敵だと感じました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

まっすぐな思いがあるからこそこたちにしていくこと。それを見守りながら期待をかけていくこと。新たな人の循環がこの地域に根付いていくかなと感じました。(江藤)



協力隊の今日この頃

5月になりました。実は私は地域おこし協力隊を4月末で退任しています。曾於市へ来てから3年を過ごしました。その中で曾於市テレワーク・起業施設「シゴトバ3ラボ」の運営をさせていただき、少しでも役に立ち事業が進んでいってほしいとの思いで仕事をしてみました。が、どれくらい役に立ったかなと自問自答しています。

ですが、齊藤さんのお話を伺い、想いはカタチにしていけること、また想い続けていくこと、継続していくことは大事なことでと再度認識しました。これからも事業者の方、起業したい方へのご支援、地域に役立つことなどをしていきたいと思っています。今までありがとうございました。また会える日を楽しみに！(江藤)



令和2年にテレビの取材を受けた江藤さん